

Ⅲ 希望と活力に満ちたまち

恵庭市民の「住みよさ」に対する満足度は、周辺他市町村よりも高く、多くの方が恵庭に愛着を持って生活していることがうかがえます。このような姿であり続けることは、市民がそのまま恵庭に住み続け、また、道内外の他地域に住んでいる方も、恵庭に来てみたい、住んでみたいと思うきっかけになりうると考えられます。

恵庭市ではこれまで、宅地開発とともに転入者が増え人口が増加してきました。

ただし、生活していくためには、仕事や日常的な買い物の場などが欠かせません。現在、市内では、農業や商工業など多様な産業の取組が展開され、地域経済の発展に大きく寄与しています。恵庭の各産業は、地理的・自然的条件を最大限に活かして事業活動が行われていますが、新たに事業展開を検討している事業者へのミスマッチや公共交通機関の不便さなどによる労働力の確保が厳しくなっているなどの課題があります。

また、観光産業は、その重要性がますます高まっており、本市を訪れる観光入込客数は平成18年度の「道と川の駅」「えこりん村」の開業を境に飛躍的に増加し、平成21年度以降は130万人前後の入込客数となっています。傾向としては、札幌市や新千歳空港への交通利便性や、市内宿泊施設の規模から、いわゆる「通過型」となっているため、滞在期間が短いことが課題となっています。今後さらなる地の利を生かした交流人口の増加や、市内周遊による滞在期間の長時間化を促進させるなど、地域経済の発展を促す具体的な取組が必要となっています。

そのため、行政と民間が協働の取組により、農業や商工業といった地域産業を振興し、いきいきと働きやすい環境を創出することが重要です。併せて、恵庭の観光資源を最大限に活かした観光産業の振興を図り、恵庭ならではの地域資源・都市基盤を活かすまちづくりを行います。

10 いきいきと働きやすいまち

地域産業を振興し、就業の場の確保と所得の向上を図り、「若者が地域に残り、バランスのとれた定住人口が確保される」まちをめざします。

11 恵まれた土地を生かした農林業

行政、農業者、農業関係機関等が連携し、都市近郊型農業をさらに持続発展させると共に、森林や農村地帯の環境保全を図っていきます。

12 暮らしを支える商業

中小企業振興基本条例に基づき、各種事業の推進と、行政、事業者、市民が協力した地域循環型経済の実現を図っていきます。

13 来てみたいまち 住んでみたいまち

花のまちや恵庭深谷など魅力ある観光資源の情報発信の強化などを図り、観光による交流人口の増大をめざします。恵庭市の魅力を情報発信し、移住・定住など、「来てみたい」「住んでみたい」まちづくりを推進します。

Ⅳ 人が育ち文化育むまち

社会構造の変化や就労形態の多様化により、子育て世代にとって保育所や学童クラブなどの保育サービスの需要が高まっています。また、子ども達の中には、ヒューマン・コミュニケーション※の力を育む体験の減少や、心の悩みの深刻化、いじめ問題や不登校・ひきこもり等の増加などの諸問題が生じています。更に障がい児に対するきめ細やかな支援を行う必要性が高まっているなど、多様なニーズに対応する体制充実と教育・保育環境の整備が必要となっています。

これまで恵庭で行ってきた、読書のまちづくり、コミュニティスクール、通学合宿、子ども会活動など、多岐にわたる事業については、今後も地域住民主体により幅広く展開していくことが重要と考えられます。

また、文化芸術活動においても、数多くの文化芸術団体の活動がありますが、新たな文化芸術活

動を創出するためには、団体同士の連携や国際交流などの異文化・多文化交流の促進や、次世代を担う人材の育成を含めた世代間交流が重要です。

そのため、少子高齢化、高度情報化、国際化や価値観の多様化する社会にあっては、自立心のある子どもたちを育成していくと共に、様々な市民が、価値観に応じて学習や文化活動に取り組めるような機会や環境を提供していくことが重要です。

世代を超え、互いの活動を認め合い、コミュニケーションや連携を図りながら、学校教育を含め、郷土芸能や郷土への愛着を育む「ふるさと教育」を推進します。また、市民の活動を通じて子どもたちをみんなで育成し、子どもたちの成長に生きがいを感じることができるような「二次的な広がり」を見せる、人が育ち文化育むまちをめざしていきます。

14 地域で育む子育て環境

市民と行政、市民同士が積極的にコミュニケーションを図るとともに、子育て世代のニーズを把握し、地域に根ざした子育て環境の形成を図っていきます。

15 心豊かな思いやりをもった子どもの育成

地域住民主体による実践を通じた青少年の健全育成と、指導者の育成や指導者間の連携の充実を図っていきます。

16 子どもの自立成長を促す学校教育

少子高齢化、高度情報化、国際化や価値観の多様化する社会にあって、“自ら課題を見出し解決する力”、“社会、自然等と共に生きる力”、“生涯にわたって学び続ける力”を身に付け、自立心のある子どもの育成をめざします。

17 手を取り合い 創造性を育む文化芸術

学びを通じた人のネットワークづくりや全市民が一体となった文化芸術の振興により、世代を超えたコミュニティづくりを図っていきます。

※ヒューマン・コミュニケーション：子どもから大人まで年齢や職種を問わず人間関係を構築するため、お互いの考えや気持ちを理解しあう力を育むこと